

日立金属株式会社

2018年度中期経営計画 進捗状況

[目次]

1. 2018年度上期総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
3. 2018年度中期経営計画 主要施策
4. アクションプラン

2018年10月25日

1-1. 2018年度上期総括

■業績の状況

(金額単位:億円) ()は利益率	2017年度2Q累計実績 為替レート1\$=111円	2018年度2Q累計実績 為替レート1\$=110円	前年度対比
売上収益	4,824	5,190	+8%
調整後営業利益	(6.7%) 322	(6.4%) 331	+9
EBIT	291	382	+91
税引前四半期利益	280	372	+92
当期利益*	196	281	+85

- 最大課題の原材料・副資材価格高騰へのスライド制対応完了、価格是正の効果発現
- 課題2事業の損益改善(耐熱鋳鋼、アルミホイール)
- 特殊鋼の伸長
- 一部製品で、スマホ/FA等の需要減退の影響

■配当額の修正(増配)

	年間配当金 (期初予想)	中間配当金 (実績)	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
2018年度	26円	17円	17円	34円

成長と株主還元の実現(配当性向30%目標)

* 親会社株主に帰属する四半期利益

2-1. 2018年度業績 主要経営数値

(金額単位:億円) ()は利益率	2017年度実績 為替レート 1\$=111円	2018年度予想 2Q累計実績為替レート1\$=110円 下期想定為替レート 1\$=105円
売上収益	9,883	10,200
調整後営業利益	(6.6%) 651	(7.2%) 730
EBIT	489	670
税引前当期利益	470	645
当期利益*1	422	480
ROE*2	7.5%	8.3%
ROA*3	4.0%	4.5%

- 大型設備投資分野での積極受注、投資効果の刈り取り
- 価格是正効果の拡大
- 課題2事業の損益改善拡大

*1 親会社株主に帰属する当期利益

*2 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社所有者帰属持分 × 100

*3 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

2-2. セグメント別売上収益 調整後営業利益

(金額単位:億円)		2017年度実績 (為替レート1\$=111円)	2018年度計画 (2Q累計実績為替レート1\$=110円) (下期想定為替レート1\$=105円)	前年度対比
特殊鋼製品	売上収益	2,906	3,200	+10%
	調整後営業利益	279	310	+31
	利益率	9.6%	9.7%	+0.1%
磁性材料	売上収益	1,061	1,150	+8%
	調整後営業利益	96	75	△21
	利益率	9.0%	6.5%	△2.5%
素形材製品	売上収益	3,601	3,450	△4%
	調整後営業利益	118	170	+52
	利益率	3.3%	4.9%	+1.6%
電線材料	売上収益	2,305	2,400	+4%
	調整後営業利益	149	170	+21
	利益率	6.5%	7.1%	+0.6%
その他・調整額	売上収益	10	0	—
	調整後営業利益	9	5	—
合 計	売上収益	9,883	10,200	+3%
	調整後営業利益	651	730	+79
	利益率	6.6%	7.2%	+0.6%

日立金属株式会社

2018年度中期経営計画 進捗状況

[目次]

1. 2018年度上期総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
3. 2018年度中期経営計画 主要施策
4. アクションプラン

3-1. 業績推移、課題認識

・M&Aによる事業規模・領域の拡大

・長期にわたる投資抑制により、
モノづくり力・開発力・営業力が弱体化
・個別最適に陥りがちな組織風土

・オーガニック成長の停滞
・収益性改善の遅れ、計画未達

・大型成長投資
・フロント強化、組織改革推進
・課題事業への対応

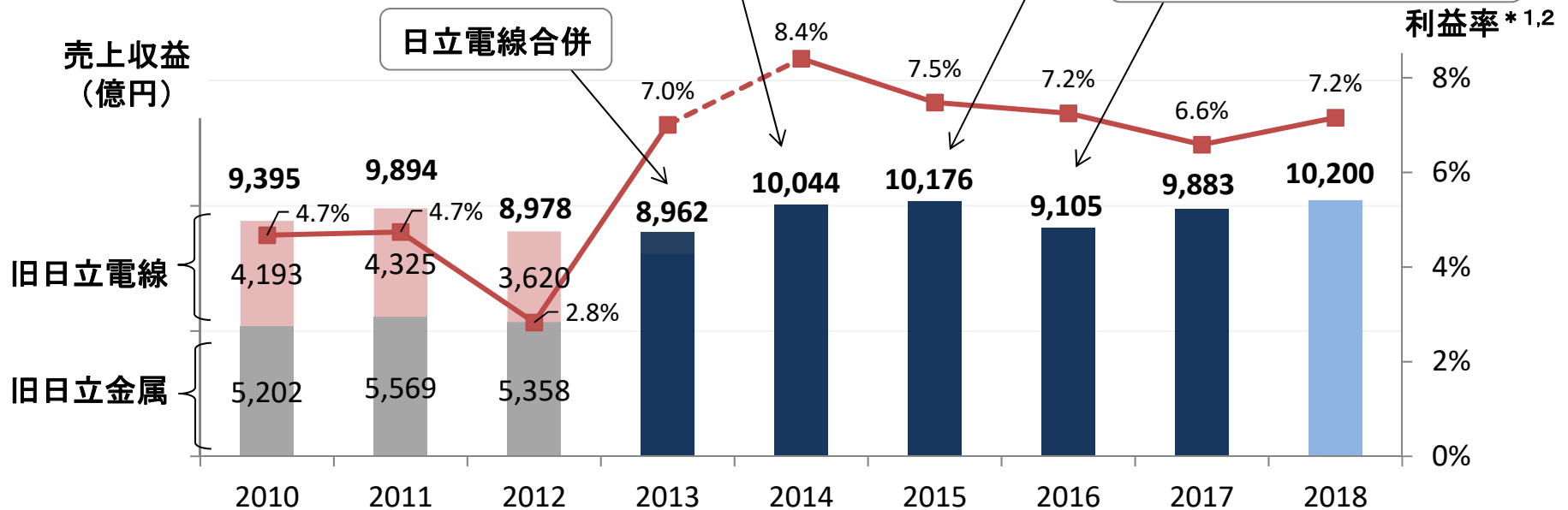
(2000年代)

・2003年 アモルファス事業買収
・2004年 住友特殊金属買収

・Waupaca社買収
・三菱マテリアル航エネ事業 子会社化
・日立機材売却

日立ツール売却

情報ネットワーク事業売却



* 1: 2010~2013年度営業利益率は合併前の日立電線と日立金属の合算ベース

* 2: 2010~2013年度:営業利益率、2014年度以降:調整後営業利益率

2018中計 (予想)

大型成長投資の早期戦力化

ターゲット市場	主要アクション	2018年度	2019年度～
EV	<希土類磁石>革新的生産ライン 原料リサイクル 三徳買収	・稼働開始 ・買収	・本格量産 ・シナジー発揮
有機EL・スマートフォン	<巻線>新鑄造ライン	・稼働開始	・本格量産
高効率内燃機関部材	<クラッド材>増産		・稼働開始 ・本格量産
航空機エンジン	<特殊鋼>増産	・上工程大型投資 ・買収拠点100%化	

フロント強化、組織改革推進

- ・横串営業とコーポレート研究所(GRIT)を軸とした協創
- ・日立金属グループ総合力を最大限に発揮できる組織改革を検討中

課題事業への対応

- ・<アルミホイール>米国子会社経営体制見直し
- ・<耐熱鑄鋼>モノづくり改革、価格是正、生産量の適正化

真の「開発型企业」への変革

■コーポレート研究所GRITの開設

【脅威と機会】 持続的成長と社会貢献に資する
 中長期を見据えた先端材料研究開発の推進

【協創】 研究機関・大学・企業との連携によるオープンイノベーション

2018年4月 新建屋竣工 延べ140社超が来訪
 来訪を機に複数テーマでビジネス、オープンイノベーション案件が始動

■ GRIT来訪状況 (2018年4月以降)

分野	対象製品	延べ人数
自動車	モーター、インバーター 関連材料	123
3DP	航空機 半導体製造装置など	127
ロボット	モーター関連材料	68
その他	—	275
合計		593



3DAMオープン・ラボ



GRIT新建屋(熊谷市)

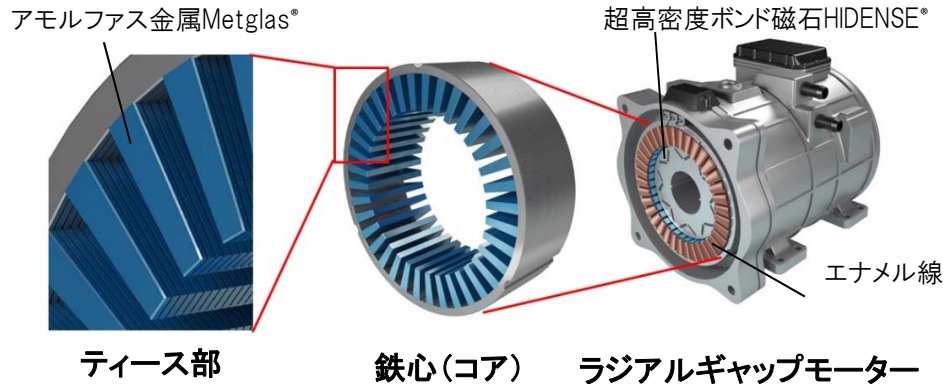


*GRIT: グローバル技術革新センター Global Research & Innovative Technology center

高効率モーター アモルファス金属コア構造を開発

開発品のコア、磁石、エナメル線に当社製品を使用

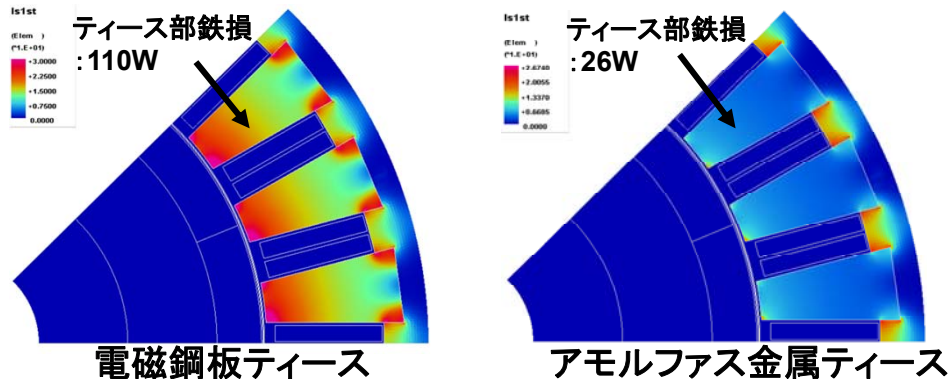
【開発した新鉄心構造のイメージ】



低損失(鉄損)のアモルファス金属 Metglas®のコアモーター

- 量産実用性が見込める構造を検討
→ ティース部のみに適用
- モーター効率97.2%*
* モーター効率ガイドライン最高レベル IE5適合
- 市場で主流構造のラジアルギャップ型

電磁鋼板ティースとアモルファス金属ティースの鉄損比較



小型高出力ニーズの高い
車載駆動用モーター市場へ道筋

素材で未来を創造するトータルマテリアルイノベーター

3-5. ポートフォリオ戦略

基盤事業のキャッシュフローを活用、花形・育成事業へリソース投入、高収益化

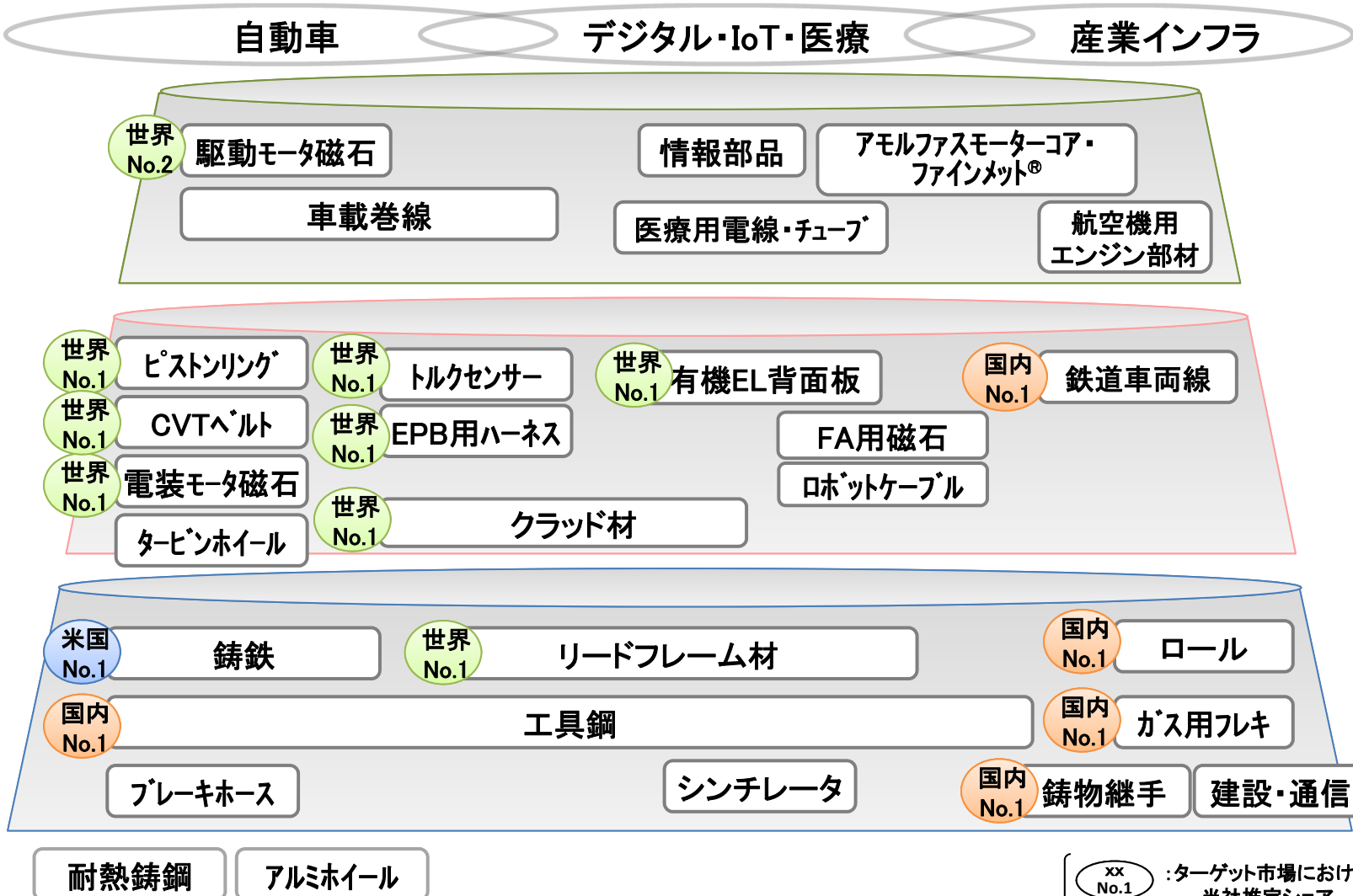
2018年度
概算売上見通し

育成事業
1,800億円

花形事業
3,200億円

基盤事業
5,000億円

課題事業



xx No.1 : ターゲット市場における当社推定シェア

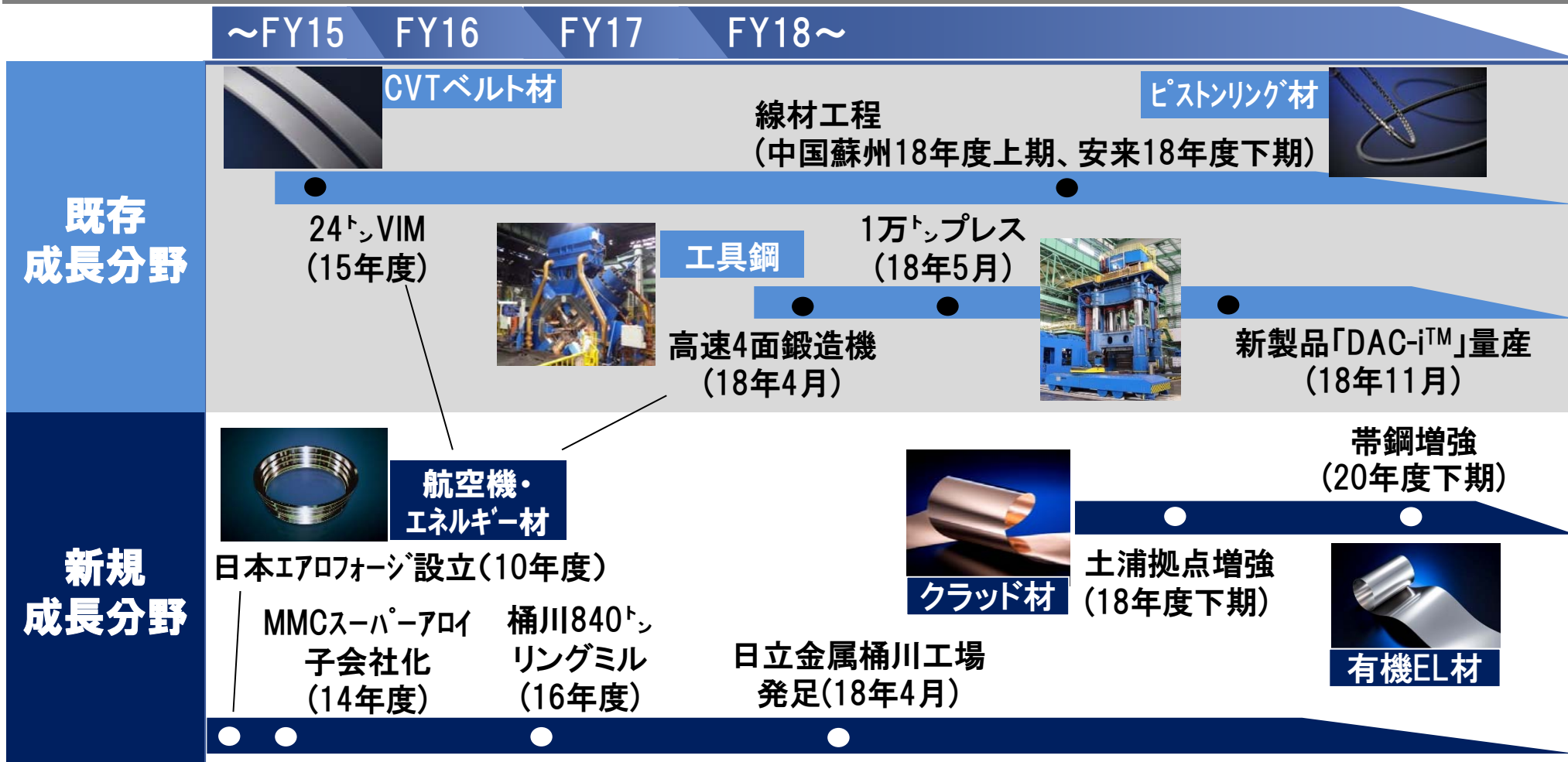
日立金属株式会社

2018年度中期経営計画 進捗状況

[目次]

1. 2018年度上期総括、取組概要
2. 2018年度業績目標
3. 2018年度中期経営計画 主要施策
4. アクションプラン

連続的投資効果の実現による 収益体制のさらなる強化



既存分野の基盤強化と新規分野への拡大 (2016~18年度累計700億円投資)

革新的生産ラインの稼働上昇と拡販体制の確立

革新的生産ラインの戦力化

ネオジム磁石：18年9月量産開始

フェライト磁石：18年4月量産開始

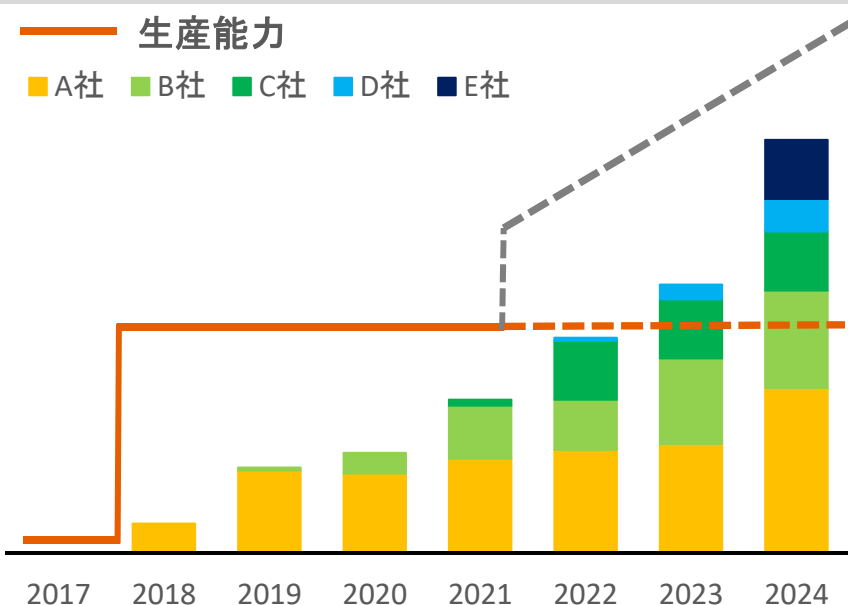
重希土類の使用量抑制

自動車分野での
重希土類フリー磁石の採用拡大

マテリアルフローの最適化

三徳子会社化により
原材料を内製化

革新的生産ライン受注状況



EV市場でのシェア増大に向け、
ネオジム磁石生産能力を2.5倍超へ増強

配管機器事業の強化・拡大

国内事業：生産効率向上と能力増強によりキャッシュカウ強化

海外事業

鋳物継手



品質安定化、省エネルギー化、コンパクト化、メンテナンス性を追求
(2018年8月稼働)

生産効率向上

フレキシブル配管システム



高品質化、高精度化を図りながら造管速度を向上
(2018年10月テストライン稼働、18/3Q量産開始)

20%能力増強

収益率向上・シェア拡大

フレキシブル配管システム

中国・欧州拡販







マスフローコントローラ

中国拡販

ソリューションサービスにより事業拡大

配管機器事業 2021年度 海外事業売上 30%増 (2018年度対比)

成長分野を拡大し、高収益体質への変革を実行

成長分野		戦略	施策
鉄道		中国・欧州を軸に事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・中国拠点の生産能力増強 (2018年度稼働) ・ソリューション提案と生産能力増強による欧州ハーネス事業拡大
医療		チューブと電線技術の融合	<ul style="list-style-type: none"> ・チューブ/電線の複合製品を開発・量産 (2019年度) ・中国拠点のプローブケーブル生産能力増強 (2019年度稼働)
自動車電装部品		新製品量産	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ/中国/メキシコ拠点の生産能力増強 (継続的实施) ・EV用モータ向け配線部品の量産拡大
マグネットワイヤ		EV向け新需要捕捉	<ul style="list-style-type: none"> ・革新的生産ライン導入 (日本/タイ2018年度稼働、中国検討中)
FA・ロボット用電線		グローバル3拠点で一貫生産	<ul style="list-style-type: none"> ・日本/ベトナム/中国拠点の生産能力増強 (~2020年度順次稼働)
導体		<ul style="list-style-type: none"> ・効率/生産性の大幅改善 ・HiFC®の量産 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型連続鑄造圧延ラインへの切替 (2018年度中) ・HiFC®の安定量産とマグネットワイヤへの適用 (2019年度)

2021年度目標 成長分野の売上比率50%以上の実現

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動